

## 哲学教育における組織的な情報共有の重要性 哲学教育研究会の設立

### 哲学者とのファースト(アンド・ファイナル?)コンタクト の場としての哲学教育

稲岡大志

第75回日本哲学会大会  
男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ:  
哲学と導入教育——哲学教育の質的向上を目指して

2016/05/15 於:京都大学吉田キャンパス

### 哲学者とのファースト(アンド・ファイナル?)コンタクト

- 多くの学生にとって、教養課程として受講する哲学の授業は、**人生で初めて哲学や哲学者に触れる機会であり、おそらくは最後の機会**である。
- そうした学生に、何を、どうやって教えればよいのか?
- とりわけ、哲学史をどう教えればよいのか?

## 哲学史を教える難しさ

- 学生が学ぶ動機付けをどう与えればよい?
- 15回や30回の授業で哲学史をどこまでフォローすべき?
- 授業外学習をどう設定すればよい?
- 教科書は使う?使わない?
- レポートや試験などの評価方法はどうすべき?
- 学生にとって身近な話題とリンクさせにくい主題をどう教えればよい?

### なぜ教養教育で哲学史を教える必要があるのか?

- 1: 身に付けるべき教養として教える。
- 2: 哲学する、哲学的思考をするための基盤として教える。
- 3: より一般的なスキルの習得のために教える。
- 4: 教養教育では哲学史を教える必要はない。

## 哲学史の授業をどう設計するか?

- 「学生目線」をどう捉えるか?有用性アプローチか?魅力・関心喚起アプローチか?
- 到達目標は?知識の習得?スキルの習得?
- 授業スタイルは?講義型か?アクティブ・ラーニング型か?
- 授業内容は?時系列に沿った内容か?テーマ重視の内容か?

## 哲学史をどう教えるか?

- ①: **時系列に沿った講義スタイル**: 古代ギリシアから現代まで、代表的な哲学者の議論を講義する。受講生の関心を引きつけるために何らかの工夫が必要。どうすれば受講生の知的好奇心を高めることができる?
- ②: **テーマ重視の講義スタイル**: 「心」「時間」「無限と有限」「生命」「正義」といった、特定のテーマに絞って、アラカルト的に哲学史を講義する。開講学部・学科の特性に合わせて授業内容をデザインできるので、受講生の関心は引き付けやすい?





畠山創、『大論争！哲学バトル』、  
角川書店、2016年。



## 魅力的な哲学の「問い」とはどのような問いか？

- ・『言語はなぜ哲学の問題になるのか』
- ・『コウモリであるとはどのようなことか』
- ・『哲学するのになぜ哲学史を学ぶのか』
- ・『哲学はなぜ役に立つのか?』
- ・『なぜ意識は実在しないのか』
- ・『あたらしい哲学入門 なぜ人間は八本足か?』
- ・『不合理性の哲学——利己的なわれわれはなぜ協調できるのか』
- ・『それは私がしたことなのか 行為の哲学入門』

- ・『カントはこう考えた——人はなぜ「なぜ」と問うのか』
- ・『タイムトラベルの哲学——「なぜ今だけが存在するのか」「過去の自分を殺せるか』
- ・『なぜ人を殺してはいけないのか?』
- ・『なぜ私たちは過去へ行けないのか——ほんとうの哲学入門』
- ・『時間は実在するか』
- ・『足の裏に影はあるか? ないか? 哲学随想』

- ・哲学のエッセンスシリーズ：
  - ・『ウイゲンシュタイン 「私」は消去できるか』
  - ・『マルクス いま、コミュニズムを生きるとは?』
  - ・『クリプキ ことばは意味をもてるか』
  - ・『レヴィナス 何のために生きるのか』
  - ・『ベルクソン 人は過去の奴隷なのだろうか』
  - ・『デイヴィッドソン 「言語」なんて存在するのだろうか』
  - ・『スピノザ 「無神論者」は宗教を肯定できるか』

- ・『デリダ なぜ「脱—構築」は正義なのか』
- ・『メルロ=ポンティ 哲学者は詩人でありうるか?』
- ・『アリストテレス 何が人間の行為を説明するのか?』
- ・『フッサール 心は世界にどうつながっているのか』
- ・『デカルト 「われ思う」のは誰か』
- ・『ライプニッツ なぜ私は世界にひとりしかいないのか』
- ・『カント 世界の限界を経験することは可能か』
- ・『プラトン 哲学者とは何か』
- ・『ニーチェ どうして同情してはいけないのか』

## まとめ：哲学史教育に関する組織的な情報共有

- ・集団で共有して活用できる工夫は多い。
- ・魅力的な「問い」。魅力的でない「問い」。
- ・教えやすい哲学者、教えにくい哲学者。
- ・教えにくい哲学者を教えやすくする工夫。
- ・学部・学科ごとの学生が興味を持ちやすいテーマ、持ちにくいテーマ。